



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2022. 6. 1
第79号

今年度の聖句

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。
(フィリピの信徒への手紙 4章 4～7節)

コロナ禍に死生観を問う

広島女学院院長・大学学長 三谷高康

米国の東海岸の代表的都市であるボストンに住んでいた頃です。この地方はニューイングランドと呼ばれ米国の歴史でも最も古い地域の一つです。17世紀前半に英国から信教の自由を求めて大西洋を渡ってきたピューリタンたちがこの地方一帯を開拓しました。

毎日曜日は、住まいの近くの教会へ出席していましたが、時折、古い教会を巡り、そうした歴史的な建造物の中で行われる礼拝にも足を運んでおりました。古いニューイングランドの教会の特徴は、信徒席がベンチ、つまり長椅子スタイルではなく升席になっていました。パーティションによって囲まれた升席は一家族が占めるように造られ、年間使用料を献金として教会に収めるシステムになっていました。もう一つの特徴は教会の裏庭が墓地になっていることです。約300年前のピューリタンの教会堂は、祭壇の装飾については偶像を飾らないように非常に警戒しておりましたが、逆に墓石は念入りに装飾や文字が刻み込まれ手の込んだものが多くあります。ラテン語で刻み込んだ文言も少なくありません。そうした中でも、「メント・モリ」、日本語訳にすると“死を忘れるな”、或いは「フギト ホラ」“時は去り行く”が目につく言葉でした。

なかには短い詩を刻み込んだものもあり、それが時には感動的で、又ユーモアに溢れているものもありました。

次のような詩が刻み込まれている墓石がありました。私が好きな言葉です。

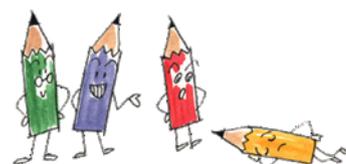


「あなたが通りすぎるとき、わたしをよく見なさい。今のあなたのように、わたしもそうであった。今の私のように、あなたもなるであろう。死の備えをして私についてきなさい。」

キリスト教は独自の死生観を創ってきました。ローマカトリック教会はとりわけ特徴的です。フィレンツェのサンタクロチェ教会には、ミケランジェロやダンテ、ガリレオの霊廟が礼拝堂内にあります。バチカンのサンピエトロ大聖堂はその名前の通り、まさしくペテロの墓の上に建っています。つまり、教会堂は死者と生者がともに神を賛美する空間であり、礼拝が神の国を再現するものなら、そこに死と生を超越した世界が現存するという教えです。

コロナ禍の中で私たちは、自分たちの生き方、死生観が問われる状況になりました。広島女学院でキリスト教を学んだ同窓生の皆さん方は、ご自分の死生観をお持ちのこととも思いますが、この一文が少しでも皆さん方の考えの一助になれば幸いです。

「絵を描き続けて」



藤井美加子 (高36)

物心がついた時から絵を描くことが好きでした。小学生の頃は、休みの日になるとスケッチブックを持って出かけては、暗くなるまで絵を描いていました。それは今も変わらず、屋外でスケッチをしている時が一番幸せな時間です。

広島女学院高校一年生の一学期の終わりに、美術の先生から美術大学へ進学するための予備校があると教えていただきました。その頃の美術大学は狭き門で、現役で合格するには早くから予備校へ通うのが必須条件だと言われました。夏休みの講習会を体験受講したことで、東京の美大への思いが強くなりました。しかし、当時は家庭の事情もあり、東京の美術大学への進学は難しい状況でした。両親にも担任の先生にも反対されましたが、奨学金を受給することと、大学を卒業したら広島で美術教師になるという約束で、多摩美術大学の日本画科へ進学しました。

日本画を専攻したのは、日本画科の入学試験が水彩画だったため、油画よりは画材が安いという理由でした。大学へ入学して初めて、日本画は岩絵具と膠で描かれる日本独自の絵画だと知りました。天然の鉱石を砕いて作られる岩絵具をはじめ、膠、和紙、金箔に筆、どれもが高価な画材で、日本画の画材は安価だという予想は見事に外れたのですが、岩絵具はまるで宝石のようで、一瞬にしてその美しさに魅せられました。



高原の春



日本画がどんなものかも知らずに入学した上、現役で入った私は恥ずかしいほど力量が足りませんでした。画力を身につけるには、人より多くの失敗をして、技術の引き出しを増やしていくしかないと思い、在学中はとにかくたくさん絵を描きました。また、時給が良い美術予備校の講師のアルバイトを続けたことも、画力の向上に役立ったと思います。きっと周りよりも絵が上手くて才能に恵まれていたら、私は画家にはなっていなかったと思います。

大学在学中に、親に認めてもらいたい一心で出品した、日本画の三大公募展に入選しました。憧れの先生方の作品と一緒に自分の作品が展示されたことにより、画家になりたいという思いは益々強くなりました。東京で絵の勉強を続けたいという思いから、両親に内緒で大学院を受験しました。大学院合格の報告に、父から「欺かれた」と嘆きの手紙が届きました。インクの滲みは母の涙のせいだと書かれていたのを今でも思い出します。今は私の画業を喜んでくれています。当時、娘の帰りを心待ちにしていた両親の気持ちを思うと本当に親不孝だったと思います。



月の時間

大学院修了後は、特許庁の意匠課で調査員として働きながら制作を続けました。意匠課は工業製品から日用品まで、出願されたデザインに似たものがないか調査する部署です。そのため、美大出身の職員の方も多く、皆さんが私の制作活動を応援してくださいました。貯めたお金で個展を開催し、海外へスケッチ旅行にも出かけました。

1995年に文化庁芸術インターンシップ研究員に選ばれ、特許庁を辞めることになりましたが、特許庁での5年間は様々な経験と、たくさんの人との出会いにあふれ、本当に充実した日々でした。

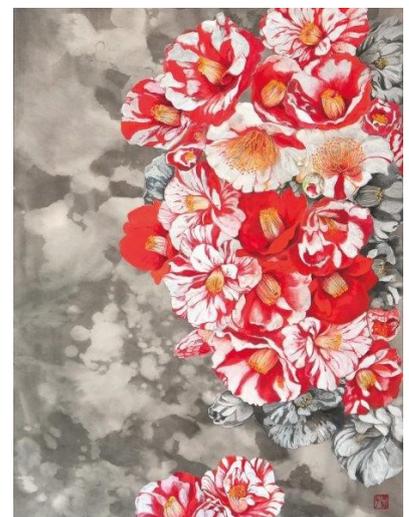
私は学生の時分から、自分の好きな絵を描き続けることさえできれば、それでよいと思っていました。その思いは2011年の東日本大震災をきっかけに、大きく変わりました。突然多くの人々の人生が絶たれ、人々の日常が失われた未曾有の大惨事の前では、絵は何の役にも立たない無意味なものと思われ、一時は絵を描くことに罪悪感すら覚えました。そんな時、被災地へ送る寄付金を募るためチャリティー展を開かないかと、あるギャラリーから連絡をいただきました。震災からまだひと月、計画停電で照明もない中、八名の画家仲間と展覧会を開催しました。東京でもまだ余震が続く時期で、絵を観に来る人はいないのではないかと感じていましたが、たくさんの友人知人が足を運んでくれました。来場者の中には、絵を見てほっとしたと涙を流す方もいました。その後、被災地のボランティアから、公共の場に絵を飾りたいので貸してもらえないかという問い合わせもあり、アートも失意の人々の心には必要なのだと実感しました。

その時から、人に喜んでもらえる絵を描きたいと思うようになりました。風景画だけでなく、花も、動物も、希望があれば何でも描きます。より身近にアートを感じてもらうため、日本画を扇子に仕立てたり、日傘にも絵を描きました。依頼があればワークショップも行います。思いが変わったことで、あらゆるものが新たな挑戦となり、私自身も絵を描くことがより楽しくなりました。

いまコロナ禍にあって、展覧会を開催することにためらいもありますが、絵を観て少しでも気持ちに潤いをもたらすことができるといふ思いから、開催を続けています。美術館へは行くけれど、ギャラリーには入りにくいという方も多いと思います。作家もギャラリストも作品をたくさんの人に観てもらうことが一番の喜びです。私が展覧会を開くことで、気楽にギャラリーへと足を運んでいただき、アートを楽しむきっかけになればと願っております。

■今後の展覧会情報

- ・「風景のいま展」7月4日～14日
銀座・ギャラリー和田
- ・「瀬戸内界限展」7月31日～8月7日
尾道市因島・ギャラリー政吉
- ・「日本画三人展」10月2日～16日
銀座・シルクランド画廊
- ・「ねこ展」11月3日～13日
銀座・ギャラリー枝香庵
- ・「廣游会」11月29日～12月5日
そごう広島店・美術画廊



TSUBAKI

お知らせ 「同窓生が読む広島女学院被爆証言集の会」

8月6日(土)、13時～14時半

会場:カタログハウス本社ビル

渋谷区代々木2丁目12-2 新宿駅南口徒歩8分

以前より、広島女学院同窓会の被爆証言集「平和を祈る人たちへ」を読む機会をと考えていましたが、カタログハウスの季刊誌「通販生活」で毎回、原発や平和について特集が組まれていることから協力をお願いしたところ、本社の7階のレストルームをお貸し頂ける事になりました。収容人数は50人位まで。一般の方もどうぞ。

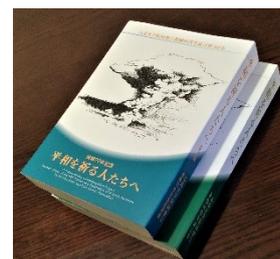
民藝女優の笹本志穂

(山田/高59)さん、

元放送部の安藤希さん、

神奈川支部長の徳久碧さん等にも証言集を読んでも頂きます。

当日、核兵器禁止条約の場に日本政府の参加を求める署名も集める予定です。(白井京子)



報告 全国代表者会議 & ホームカミングデー

4月22日(金)、3年ぶりで全国代表者会議が対面で行われました。出席者は約30名でした。

礼拝では、今年度の年間聖句を選んで下さった広島流川教会の向井希夫牧師から、「神様が無条件であなたを愛して下さっていることを喜びなさい」とメッセージを頂きました。その後、議事に入り、全議案とも承認されました。

各ブロック、支部の活動報告では、コロナ禍で活動を休止しているところが多く、関東ブロックや東京支部のように、毎月の役員会やメインの活動(夏雲の集い、クリスマス礼拝、支部ニュース発行)を継続しているところは少ないようでした。終了後、校地内の原爆死没者慰霊碑の前で礼拝を行いました。

翌23日、リーガロイヤルホテル広島にてホームカミングデーが開催されました。テーマは「集える喜び」。



参加者は、約200名で、実行委員は、高校21回(文英・文日3、短大20)、高校31回(文英・文日13、短大30)、高校43回(文英・文日25、短大42)の方々でした。

礼拝で三谷高康院長・学長からメッセージを頂き、竹内路子同窓会長、中川日出男理事長のご挨拶の後、呉で内科医院を開業されている日下美穂さん(高校26回)の減塩食を勧める熱の入った講演がありました(第74号「同窓生の輪」に寄稿)。感染対策のために細かい配慮がされており、安心して久しぶりの「集える喜び」を味わえたひとときでした。(坂下)



『聴覚障害生と共に学んで』 広島女学院中学・高等学校発行（1981年10月）

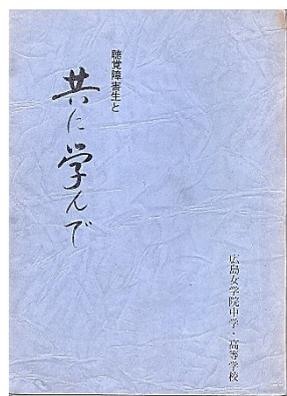
前号の「同窓生の輪 私と女学院」で、湯浅はるみさん(土井/高 32, 文日 14)が、聴力障がいを持ったご自身の学校生活について語って下さり、「これぞ女学院の教育！」と、大きな反響を呼びました。

その後、担任でいらした森匡世先生から、女学院中高発行の『聴覚障害生と共に学んで』というご本をお貸し頂きました。そこには、湯浅さんご自身の努力はもちろんのこと、お母様の深いご愛情と配慮、森先生の自立を目指した教育方針をはじめ、教育を担当された各先生方の試行錯誤とご努力の日誌、森先生・湯浅さん・カウンセラーの倉永先生の筆談での会話の記録、同学年の生徒さん方の思いと支援の現実等々、湯浅さんの文章の襞の中にあつた数々の出来事がリアルに描かれていました。

このご本を東京支部役員 11 名で約4ヶ月かけて回覧させて頂いた後、湯浅さんと同期の木村貴子さんに代表でメッセージを寄せて頂きました。

なお、このご本は既に絶版になっておりますが、国

会図書館や京都大学、広島県内のいくつかの大学の図書館に収蔵されていますので、お問い合わせください。(坂下)



■卒業から 40 年近くが経ち、同級生が元気で活躍している姿を見るのは本当に嬉しいものです。湯浅さんが全日本難聴者中途難聴者団体連合会の常任理事として活動しているのは素晴らしい事だと思います。更に「耳マーク」の普及と要約筆記者養成事業に取り組む、未来に目を向けて歩んでいる湯浅さんは本当に素敵です。時々、悔しい思いをなさることもあるようですが、私は湯浅さんの寄稿に力を頂きました。ありがとうございます。更なるご活躍をお祈りしています。

(木村貴子/阿波・高 32)

目次

序	田中 一郎	1
担任の一人として	森 匡世	1
一、広島女学院中学・高等学校を卒業するにあたって	土井はるみ	2
―「卒業のことば」より―		
二、娘・はるみのこと	土井百合子	11
―「母の手記」より―		
三、広島女学院中学・高等学校での生活		35
(一) 中学校入学受け入れにあたって		35
(二) ホーム・ルーム指導の中で	吉田 徳子	37
―とまどいと混乱のとき―		
―内への歩みと友との輪のひろがり―	清水よし子	51
―勇気を持って挑戦―	沖田 泰弘	59
―平穏な日々―	沖田 泰弘	72
―生き方をたずねて―	森 匡世	72
―土井さんの生き方を求めて―	倉永 恭子	73
四、教科指導		74
(一) 音楽科	長松 令子	195
(二) 英語科	沖田 泰弘	193
(三) 高三履修教科の指導方法と所見	畑野 喜信	200
(四) 各教科担任	橋本 栄一	214
後記		221

12月10日 クリスマス礼拝に参加して 庭野あけみ (新保/高31)

師走に入り何かと慌ただしく、銀座の街にも人波が戻りつつある午後、3年ぶりの礼拝参加となりました。以前一度、御一緒した先輩が親しくお声を掛けて下さり、同期では私だけでしたが、現在もNPO法人でご活躍されている88歳の先輩から30代の後輩まで約40名の参加でした。讃美歌95番を歌い始めると、雑念が霧散し、胸の奥から何とも言えない懐かしさでいっぱいになり、参加して良かったと、しみじみと思いました。



説教の内容は、高橋牧師が具体的に係られた瀬戸少年院での、とある少年とその母親とのことでした。幼いころから親から愛情を受けたことが無かったその少年は、重罪犯者として入所しており、高橋牧

師と1対1の面談の時も沈黙が続き、生活態度も粗暴で先が案じられる少年でした。そんなある日、年に一度の運動会の時、親子で二人三脚の競技(ふたりで直に話すことのできる唯一の機会)がゆっくと進む中で、彼の母親が初めて彼にこう言ったそうです。「ごめんね、これから私は心を入れ替えてあなたと生きる。あなたの為に生きる。」母親からその言葉を聞いた日から彼は別人のように明るく前向きになり、今では社会復帰して、勤勉に働きながら母親と一緒に暮らしているそうです。

引用された聖句(ルカによる福音書I章46-48節):マリアが神の前に喜びと畏れをもって感謝している祈り...人は誰でも信頼され愛されていると知った時、生きる希望が湧いてくるのでしょうか。このような愛を本日の礼拝で気付かされ、この集いに参加出来たことを心から感謝致しました。



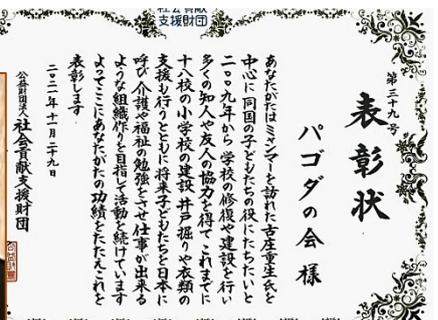
古庄重生氏 ミャンマーの学校建設で表彰!

「パゴダの会」の古庄重生氏が、2008年の巨大サイクロンによって甚大な被害を受けたミャンマーに学校を建てる活動を続けられ、これまでに18校を建設された功績を認められて、昨年11月に公益財団法人 社会貢献支援財団から表彰されました。

ミャンマーで出会った古庄氏の熱い思いに賛同した清水富士子さん(高14)の呼びかけで、同窓生有志から数年間に集まった寄付金をもとに、2018年にヤンゴン郊外のパーヨンサー小学校に「広島女学院同窓会」の名を冠した校舎が建てられ、落成式に同窓生代表が参列したことは、「東京支部ニュース」第72号でご報告いたしました。

その後、広島女学院中高の海外研修セミナーの一環であるミャンマー研修にもつながり、古庄さんは、

毎年、大分から女学院中高に足を運び、今もリモート授業で事前学習に協力され、現地でも生徒さんの受け入れをして下さっていました。現在は、コロナ禍のため、渡航が制限されていますが、パゴダの会は2021年にNPO法人チャイルドエイドジャパンとして再出発し、今後の活動に向けて準備中です。引き続きご支援をお願いいたします。(坂下)



2021年度 広島女学院同窓会東京支部 会計報告

2021年4月1日～2022年3月31日

収 入		支 出		
費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	825,659	支部ニュース費	269,284	印刷代・封筒代・郵便送料
支 部 会 費	564,000	役員会費用	52,570	会議室料・役員交通費
手芸の会売り上げ	20,000	支 部 活 動 費	103,862	クリスマス会他
寄 付	50,000	通 信 事 務 費	57,137	支部ニュース以外の通信事務費
利 子	3	関東ブロック分担金	27,260	夏雲の集い
		次年度繰越金	949,549	
合 計	1,459,662	合 計	1,459,662	

上記の通り会計報告をいたします。

2022年3月31日 会計 松岡理乃

監査の結果、収支報告に相違ありません。

2022年4月5日 会計監査 重本ゆり

2022年度 東京支部役員

支 部 長	白井京子 (現・瀧口)高 23、文英 5	関東ブロック長 支部ニュース編集長	坂下 恵 (杉田)文英 1
副支部長	滋野順子 (前埜)高 19	編集委員	小林悦子 (土生)高 46
副支部長	桜井悦子 (瀬川)高 23、文英 5	//	平田香里 (高原)高 47
書 記	佐藤美代子(池田)高 22、文日 4	実行委員	西山朋子 (佐々木)高 22、文英 4
会 計	松岡理乃 (木沢)高 30	//	木村貴子 (阿波)高 32、文英 15
宗教委員	千代崎満子(白根)高 33、文英 15	//	氏原歌子 (佐伯)高 32、文英 14
実行委員	鈴木章子 (岩田)高 19、文英 1	会計監査	重本ゆり (重本)文英 8



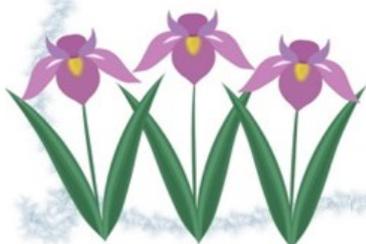
今年度の予定

- ◇ 支部ニュース発行(6月、11月)
- ◇ 7/13(水)「夏雲の集い」
於 横浜指路教会
- ◇ 8/6(土)「同窓生が読む被爆証
言集の会」於 カワグハウス本社ビル
- ◇ 12月 クリスマス礼拝

日頃のご支援・ご協力に感謝いたします
支部活動は皆様の会費に支えられています

今年度の会費(2,000円)の納入をお願い致します

80歳以上の方もお気持ちがありましたらお願い致します
振替用紙への電話番号の記入にご協力ください



※銀行振り込みもご利用いただけます
三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店
普通預金 0473771
広島女学院同窓会東京支部

2022 夏雲の集い

関東ブロック主催 原爆死没者追悼礼拝

7月13日(水) 13時30分~15時

日本基督教団 横浜指路教会 礼拝堂

横浜市中区尾上町6-85

追悼礼拝・説教 藤掛順一牧師

オルガン演奏 黒田尚子さん(高校31)



13:00~ 受付 13:25 着席 13:30~ 礼拝・説教 14:30~ オルガン演奏

同窓会関東ブロックでは、母校での350名の犠牲者を追悼し平和に向き合う集会として、故 山本(秦)知子先生の提唱による「夏雲の集い」を1988年から毎年開催してまいりました。今年は横浜指路教会にて、藤掛牧師の礼拝と説教、同窓生黒田尚子さんによるオルガン演奏を予定しております。

マスクを着用の上、飲み物をご持参ください。感染対策をしっかりと待ちますが、外出に不安のある方は、それぞれご自宅でお祈りをお願いいたします。



指路教会 交通アクセス案内

- ◇JR線、横浜市営地下鉄線
 - *関内駅下車 徒歩約4分(地下鉄7番出口)
 - *桜木町下車 徒歩約5分
- ◇みなとみらい線
 - *馬車道駅(3番出口)下車 徒歩約5分

万一当日が緊急事態宣言となった場合、横浜指路教会が開かれていれば開催いたします。指路教会のホームページでご確認ください。

東京支部問い合わせ先
090-3200-5551 (白井)

伝言板

- ◇ サロー節子さんのドキュメンタリー映画『ヒロシマへの誓い』が Amazon Prime Video で視聴できるようになりました。劇場や WOWOW でご覧になった方も、是非、またご覧ください。
- ◇ 竹内道さん(高26回)が、映画『ヒロシマへの誓い』のプロデューサーとして、この度、第39回日本映画復興賞(2021年)の日本映画平和賞を受賞されました。